助詞

付属語のうち、活用がないものを**助詞**という。助詞は自立語の後に付いて、語句と語句の関係を示したり、意味を付け加えたりする。

①**格助詞**…主に体言に付いて、語句と語句との関係を示す。
「が・を・に・と・へ・で・から・より・の・や」の10種類。
（例）主語を作る………鳥が飛ぶ。（主体）
連用修飾語を作る…本を読む。（対象）・先生に話す。（相手）
学校から帰る。（起点）
連体修飾語を作る…私の本。（所有）
並立の関係を作る…山や川。（列挙）

②**副助詞**…さまざまな語句に付いて、意味を添える。
「は・も・こそ・まで・でも・さえ・すら・だけ・のみ・しか・くらい（ぐらい）・ばかり・ほど・など・とか・なり・やら・か・ずつ」など。
（例）ネコは哺乳類です。（題目）　私も行きます。（同類）

③**接続助詞**…主に用言や助動詞に付いて、前後をつなぐ。
「て（で）・と・ば・から・ので・が・けれど・のに・ても（でも）・ながら・つつ・なり・し・たり」など。
（例）転んで、けがをした。（原因）　走っている。（補助の関係）

④**終助詞**…文や文節の終わりに付いて、話し手や書き手の気持ち、態度を表す。
「か・の・な・よ・ぞ・ぜ・さ・な（なあ）・ね（ねえ）」など。
（例）これは何ですか。（疑問）　走るな。（禁止）

※格助詞「が」と副助詞「は」の違い
・「が」の伝えたい内容は前。「は」の伝えたい内容は後。
彼が山田さんです。　彼は山田さんです。
・「は」は文全体の題目「……について言えば」を表す。
妹が帰ると遊びに行った。（遊びに行ったのはだれかわからない。）
妹は帰ると遊びに行った。（帰ったのも遊びに行ったのも妹。）
・「は」は、他のものと対比的に述べることがある。
リンゴが食べたい。
リンゴは食べたい。（リンゴ以外は食べたくない。）

助詞の用法

助詞にはさまざまな用法があり、同じ語でも種類が異なることがある。
（例）「から」
・格助詞　友達から聞く。
・接続助詞　暑いから休む。（原因・理由）＝暑い。だから休む。
また、同じ語、同じ種類の助詞でも、意味が異なることも多い。
（例）「の」
・連体修飾語を表す　私の本。
・主語を表す。　雪の降る日。＝雪が降る日。
　※「が」に言い換えられる。
・体言の代用。　これは私のだ。＝これは私のものだ。
　※「〜のもの・こと」に言い換えられる。

確認テスト

(1) 次の――線部が、格助詞なら**ア**、副助詞なら**イ**で答えなさい。

① 花は咲く。【　】
② 花が咲く。【　】
③ 水を飲む。【　】
④ 水だけ飲む。【　】
⑤ 駅へ行く。【　】
⑥ 駅へも行く。【　】

(2) 次の――線部の接続助詞の働きをそれぞれ**ア**～**エ**から選びなさい。

① 走れば間に合うよ。【　】
② 走ったので間に合った。【　】
③ 走りつつ景色を眺めた。【　】
④ 走ったのに間に合わなかった。【　】

ア 原因・理由　**イ** 仮定の条件　**ウ** 逆接　**エ** 同時

(3) 次の――線部の終助詞の働きをそれぞれ**ア**～**エ**から選びなさい。

① いつ終わるの。【　】
② 一緒に帰ろうよ。【　】
③ もうわかったね。【　】
④ 何も言うな。【　】

ア 疑問（質問）　**イ** 禁止　**ウ** 勧誘　**エ** 念押し

(4) 次の――線部が、格助詞なら**ア**、接続助詞なら**イ**で答えなさい。

① あれが、私の家です。【　】
② 押したが、開かない。【　】
③ 冬になると、北風が吹く。【　】
④ 雨と風が激しい。【　】

(5) 次の――線部の助詞の働きをそれぞれ**ア**～**ウ**から選びなさい。

① 友達と話した。【　】
② 「いいえ。」と答える。【　】
③ スズメとカラス。【　】

ア 列挙　**イ** 相手　**ウ** 引用

(6) 次の――線部の助詞の働きをそれぞれ**ア**～**ウ**から選びなさい。

① 本を読むのは楽しい。【　】
② 木の苗を植える。【　】
③ いちょうの散る並木道。【　】

ア 連体修飾語を表す。
イ 主語を表す。
ウ 「～もの・こと」という意味を表す。